


## 身近な題材を使った啓発

都道府県	青森県	学校名等	青森県立青森若葉養護学校
名称	ネットを安全に使う方法を考えよう		
目標(狙い)	ネットの利用方法について自分たちが発表しその内容を考える事により情報モラルを高める。		
<p>(具体的な取組等の内容)</p> <p>&lt;標語応募概要&gt;</p> <p>青森県立青森若葉養護学校</p> <p>「<b>考えて その指一つで 罪になる</b>」(学校部門応募作品)</p> <p>道徳の授業において、ネット利用のマナーやルールについて、生徒同士が意見を出し合った後、標語作成を行った。</p> <p>個人作品の中から学校代表の作品を関係職員が選出した。</p> <p>&lt;標語に応募するに当たって&gt;</p> <p>中学部3年生のクラス5名において、担当教諭の指導の下、クラス内でネットの安心安全について考える授業を行った際、最優秀の作品を学校部門で応募した。</p> <p>&lt;日常的なネットの安心安全な使用についての取組&gt;</p> <p>病弱虚弱の特別支援学校である青森若葉養護学校では、健康の管理以外に、安全指導の一環として、さまざまな被害から自身を守るための指導をしている。</p> <p>毎年度ケータイ安全教室を実施し、情報通信の利用についても適時指導をしてきている、今年度もe-ネット安心講座を小学部～高等部の児童生徒を対象に実施した。</p>			
写真・図表等			
<p>e ネット安心講座の受講模様 (講師：東北総合通信局)</p> 			

都道府県	青森県	学校名等	青森市立浪岡中学校
名称	情報モラルを考えよう（生徒代表によるプレゼンテーション）		
目標(狙い)	ネットの利用方法について自分たちが発表しその内容を考える事により情報モラルを高める。		
<p>(具体的な取組等の内容)</p> <p>&lt;標語&gt;</p> <p><b>悲しみを笑顔に変える ネットの利用</b>（頑張ろう日本賞（個人部門）受賞）</p> <p>&lt;標語の応募・受賞の経過&gt;</p> <p>平成25年度、校内において青森市教育委員会少年育成チームによる講座を開催した。また、各クラスの道徳の時間において、副読本のネットに関する記事を活用した授業を行っている（平成26年度は、依存症が題材として取り上げられている。）。</p> <p>その上で、1年生5クラス180人が集まり、何度かに分けて生徒代表「JUMPチーム」（後述参照）による講演会を行った。この講演会の実施に際しては、プレゼンテーション用資料を道徳の授業等で使用した資料を基に先生が作成するなどの支援が行われていたが、講演会の運営については生徒代表が話し合っ分担を決めるなど自主性を重んじた取組がされていた。</p> <p>生徒代表による講演会終了後、1年生の生徒はクラスに戻って感想文と併せて一人標語5句を提出することとして、生徒一人一人に自分の言葉で情報モラルを考えさせた。</p> <p>生徒が作成した標語の中から学校代表を選定した後、そのほかのすべての標語を個人部門で応募したところ、上記の標語が「頑張ろう日本賞（個人部門）」を受賞した。</p> <p>&lt;警察と連携した生徒による日常的な啓発活動&gt;</p> <p>毎年、青森県警察本部では「少年非行防止JUMPチーム」について、県内の小中学校生（552校・7,610人。平成26年2月末現在。）にメンバーを委嘱しており、本校でも生徒30人が委嘱を受け、活動している。活動内容としては、青少年問題に関して年度の項目を設定し、万引き防止啓発活動、自転車盗難防止活動、非行防止や薬物乱用防止街頭キャンペーン、いじめ撲滅運動、非行防止の取材と文化祭での発表、あいさつ運動の励行等に関し、昼休みの語りかけや、生徒が考えた宣言文等を教室のドア等に掲げる活動を行っている。平成26年度は、「あいさつ運動」・「いじめ防止啓発活動」・「万引き防止啓発活動」の三本柱で取り組んでいる。</p> <p>&lt;平成26年度上半期の取組&gt;</p> <p>平成26年度は、ゴールデンウィークの宿題として、ポスター、標語を書かせた。内容は青森県警察本部が募集している、非行、万引き、ネットに関する事等様々な題</p>			

材とした。また、夏休みの宿題として、非行・防犯・ネットに関するポスターを作成し、10月の文化祭で展示する。

写真・図表等

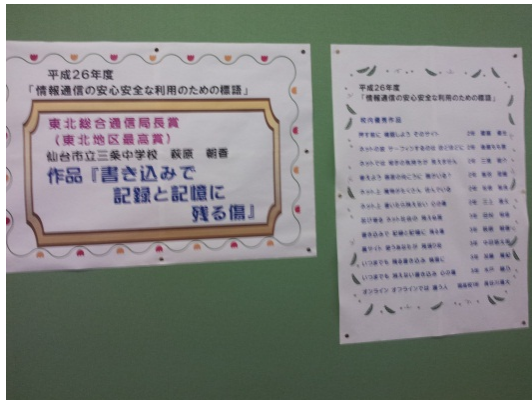
「情報通信の安心安全な利用のための標語」表彰式（メルパルク東京）の様



表彰状受領：青森市立浪岡中学校 2年 福士 結菜さん

都道府県	宮城県	学校名等	仙台市立三条中学校
名称	生徒のスポーツ大会の入賞や文化活動の受賞内容を掲示する一環として校内の優秀な標語作品の掲示（「成せば成る」）		
目標(狙い)	情報通信の安心安全な標語を軸とした、校内の情報リテラシー向上の取組		
<p>(具体的な取組等の内容)</p> <p>&lt;標語&gt;</p> <p style="text-align: center;"><b>書き込みで 記録と記憶に 残る傷</b>（東北総合通信局長賞受賞）</p> <p>&lt;学校全体の指導の軸&gt;</p> <p>同校では、前校長から継続して掲げている「成せば成る」(※)を合言葉に、スポーツや文化活動での受賞内容を個人名とともに掲示するなど、一人一人の能力を引き出す取組をされている。また、自主性を重んじた指導が行われており、チャイムなしで日々の生活リズムづくりができるようにしたり、地域の行事と連携した文化活動等に取り組んでいる。</p> <p>※原文は「<small>なせばなる</small>」（武田信玄）や「<small>なせばなる</small>」（上杉鷹山）だが、本文は前校長の造語。</p> <p>&lt;標語を軸にした校内の情報リテラシー向上&gt;</p> <p>2年に渡り、全校を上げて情報リテラシー講座を開催し、講座終了後に標語作成に取り組ませている。生徒が作成した標語は、校長、教頭、生徒指導担当等から構成される選考委員会において、最優秀作品と優秀作品3作品を選考し、表彰している。この最優秀作品及び優秀作品を含む10作品程度を校内優秀作品とし、職員室前に通年で掲示している。また、協議会への標語の応募は、最優秀作品を学校部門として、その他の校内優秀作品を個人部門でそれぞれ応募している。</p> <p>このように、生徒の自主性や積極性を引き出す学校の指導方針のもと、情報リテラシー教育の取組で学んだことが生徒の中に確実に浸透されているものと推察される。</p> <p>今年度も、12月に全校生徒対象の情報リテラシー講座を開き、受講後に標語作成に取り組む予定である。</p>			

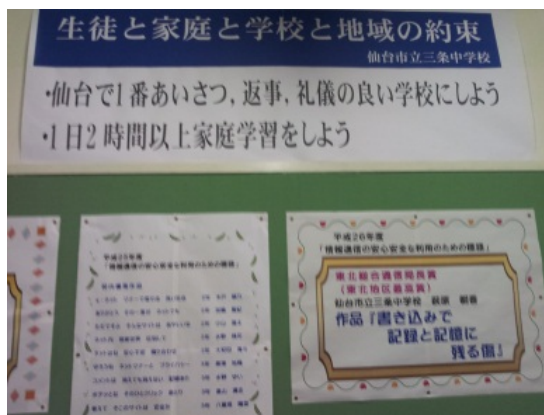
写真・図表等



↑今年度の標語の校内入賞作品



↑昨年度の標語の校内入賞作品



↑職員室前の掲示版に掲示された生徒向けの呼び掛けと標語作品



↑掲示晚一杯に掲示されたスポーツ大会や文化活動の生徒の功績



↑東北総合通信局長賞 表彰模様（平成26年度電波の日・情報通信月間記念式典）  
受領；仙台市立三条中学校代表 3年 萩原 朝香さん